TOYOTOMI

トヨストーブ

取扱説明書
〈保証書付き〉

型式 **RS-G30C**
アール エス ジー シー

自然通気形
開放式石油ストーブ

このたびは本機をお買い求めいただきまことにありがとうございます。

●ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、大切に保管しておいてください。

●取扱説明書を紛失された場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

目 次

株式会社 トヨトミ

8427000903

1 安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

絵表示	内容	絵表示	内容
	この絵表示は、「禁止」されている内容です。		この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。	説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。	

⚠危 険(DANGER)

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

⚠警 告(WARNING)

★換気必要

●換気せずに使用しつづけないでください。
　酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
　また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。
●使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
●換気する場合は、換気扇を使用したり(換気扇を使用する場合は、離れた位置の窓を開けないと充分な換気ができない場合があります。)2ケ所以上の(風の出入りのある)開口部を設けると効率よく換気できます。
　窓の凍結、地下室など換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

換気

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの上や前に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

禁止

★カーテン、寝具など可燃物近接厳禁

●カーテン、布団、毛布などや燃えやすいもののそばでは使用しないでください。火災の原因になります。
　ストーブの前に可燃物を置かないでください。ストーブの熱気で着火して、火災の原因になります。
●可燃物との離隔距離については、P3の ★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す の記載内容を参照してください。

禁止

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。

禁止

★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。
また、人目の届かないところでは、使用しないでください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

消火

★給油時消火

給油は、必ず消火していることを確認し、ストーブの温度が充分に下がってから、他に火の気のない所でおこなってください。
火災の原因になります。

消火

★油漏れ危険

●給油口口金は確実に締めてください。
　給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。
　給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて、火災の原因になります。
●油タンクから油が漏れる状態では絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

確認

★可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。
火災の原因になります。

使用禁止

★空だき厳禁

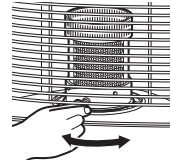
なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。
空だきすると火災の原因になります。

禁止

⚠警 告(WARNING)

★燃焼筒は正しくセットする

点火操作後、燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かし、燃焼筒が正しく、しん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを、必ず確かめてください。
燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。
マッチ点火の場合は、燃焼筒のセットを確認するとともにマッチの燃えかすをしん付近やストーブ内に落としたり、置台の上に置かないでください。火災の原因になります。
マッチや点火用ライターなどの特に引火性の高いものは、ストーブ及びその周囲に絶対に置かないでください。火災の原因になります。

確認

⚠注 意(CAUTION)

★大なべ禁止

●天板からはみ出すような大きななべ、鉄板などをのせないでください。
　内部に熱がこもったり炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
●不安定なやかん、なべなどは使用しないでください。
　転倒するおそれがあります。

禁止

★やかんやなべなどの使用注意

やかんやなべなどをのせた場合は、細心の注意をしてください。
振動や接触によって、やかんやなべなどの熱湯がこぼれ、やけどをしたり、外筒(ガラス)が割れたり、異常燃焼(立炎)の原因になります。
吹きこぼれたり、煮こぼれたりした場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。
ストーブの故障や錆発生の原因になります。
やかんやなべなどを油タンクふたの上にのせないでください。内部に熱がこもり、油タンクふたなどが熱くなりやけどのおそれがあります。

注意

★不良灯油使用禁止

変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油(灯油以外の油·水·ごみが混入した灯油など)などの不良灯油を使用しないでください。
異常燃焼や故障(しんが下がらない、点火できない、火が消えない)の原因になります。

禁止

★燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。

禁止

★移動·運搬するときの注意

●ストーブを移動する場合は、必ず消火し、ストーブの温度が充分下がってから、油タンクを取り出し、傾けないように静かに移動してください。
●修理·引越しなどで、ストーブを運搬される場合は、「ぐるんPa」のハンドルを収納した状態にし、油タンクを取り出し、油受けざらの灯油を必ず抜いてください。
　運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

指示

★異常·故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の状態など異常や故障と思われるときは、使用しないでください。
事故の原因になります。緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。

使用禁止

★燃焼筒のガラス割れ使用禁止

燃焼筒の外筒(ガラス)が欠けたり、割れて破損したままの状態では、絶対に使用しないでください。
異常燃焼を起こしたり、すすが発生するおそれがあります。

使用禁止

★高温部接触禁止

●燃焼中や消火直後は、高温部、天板(ストーブの上面)やガードに手などふれないよう注意してください。
　やけどのおそれがあります。
●やかんやなべの取っ手は、加熱している場合もありますのでやけどに注意してください。

接触禁止

★高電圧注意

点火装置は、点火時に高電圧が発生します。点火プラグに不用意にさわらないでください。
感電のおそれがあります。
掃除、点検·手入れをするときは、必ず「ぐるんPa」のハンドルを収納した状態にしてください。

感電注意

★ふく射熱に長時間あたらない

ストーブの間近でふく射熱に長時間あたりつづけると、低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
とくに、幼いお子様やお年寄り、体の不自由なかたや病気のかたなどの暖房には充分に注意してください。

やけど注意

★ほこりの除去

燃焼部周辺や置台、製品内部のほこりをときどき掃除してください。
前板の下から燃焼用空気を吸い込みますので、紙やビニールなどを入れないように注意してください。
ごみ、ほこりが堆積すると、異常燃焼や火災の原因になります。

指示

⚠注 意(CAUTION)

★安全装置の作動確認

●使用開始時と、使用中は1箇月に1回以上、対震自動消火装置を作動させて確実に消火することを確かめてください。
確実に消火しないときは使用しないで、すぐに修理してください。
●使用開始時と、使用中は1箇月に1回以上、気密油タンクの給油時消火装置が作動することを確かめてください。
正常にセット、作動しないときは使用しないで、すぐに修理してください。

★点火前の注意

使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って点火してください。
しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。

★純正部品の使用

しんなどの部品は、必ずトヨトミ純正部品(指定された部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、ストーブの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら使用しないでください。
ストーブは絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由なかたがお使いになる場合は、ストーブの取扱い、部屋の換気、高温部への接触による
やけど、低温やけどや脱水症状などについて周囲の人が充分に注意してください。

★保管時にしていただくこと

●長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜いて、「ぐるんPa」のハンドルを収納した状態にしてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。
●しんの手入れ(から焼きクリーニング)は、風があたる場所ではおこなわないでください。
火災のおそれがあります。

★廃棄するとき

指示

ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取り、「ぐるんPa」のハンドルを収納した状態に
してください。(11 保管 参照)
灯油を入れたままや「ぐるんPa」のハンドルを引き出したまま廃棄するとリサイクルの際、予想しない事故が発生するおそれがあります。

★次の場所では使用しない

使用禁止

火災や予想しない事故や故障の原因になります。

水平でない場所、不安定な場所

●傾斜した場所や振動の激しい所では、使用しないでください。
対震自動消火装置が誤作動することがあります。
●しっかりしたじょうぶな場所で使用してください。
●移動車両の中や、不安定な台の上で使用しないでください。転落したり、火災になるおそれがあります。

暖炉などストーブが囲われる場所

暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使いかたをしないでください。
火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所

粉類や繊維を取り扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
燃焼用空気を取り入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

温室・飼育室など人のいない場所

使用環境の変化で、予想しない事故が発生するおそれがあります。

理・美容院、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所

化学薬品がストーブの熱で変化し、ストーブの故障や、腐食性ガスの発生により金属・鏡・ガラスなどを傷める原因となります。

風のあたる場所、部屋の出入口、屋外

●風のあたる場所や屋外では使用しないでください。
炎が出て危険です。
掃除機の排気にも注意してください。
●部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

不安定な物をのせた棚などの下

落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

●異常燃焼を起こすおそれがあります。
●油タンクの灯油があふれ出て火災のおそれがあります。

可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

爆発や火災の原因になります。

高地(1300m以上の場所)

酸素濃度が薄いので異常燃焼を起こすおそれがあります。

★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す

●ストーブから可燃物との距離は、右図の指定以上の距離を保つようにしてください。
●ストーブ上方の棚などとの距離は必ず1m以上離してください。
●上方の棚などからの落下物がないようにしてください。
●カーテンなどが風でゆらいでもストーブにふれないようにしてください。
●家具などからは充分な距離を離してください。
熱で変形や変色、自然発火することがあります。

お 願 い(NOTICE)

★灯油の廃棄 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

2 使用する場所

★効果的に使用するために

●外気に接する窓の下や壁面など、冷気の入ってくる場所にストーブを置くと、冷気がストーブで暖められて上昇対流しますので、部屋の温度のムラが少なくなり効果的な暖房ができます。
ただし、部屋の出入口や人の通る場所、風のあたる場所、可燃物のそばには置かないでください。

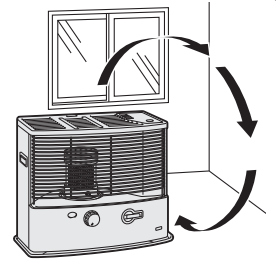
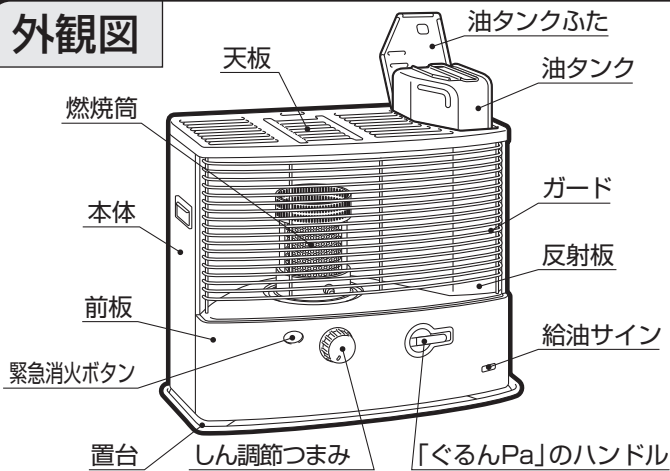
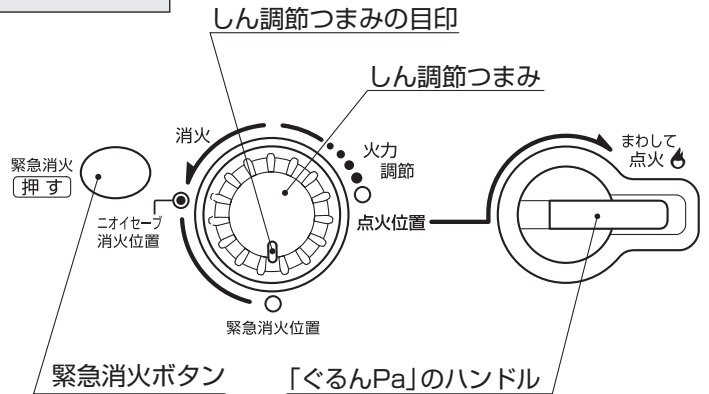
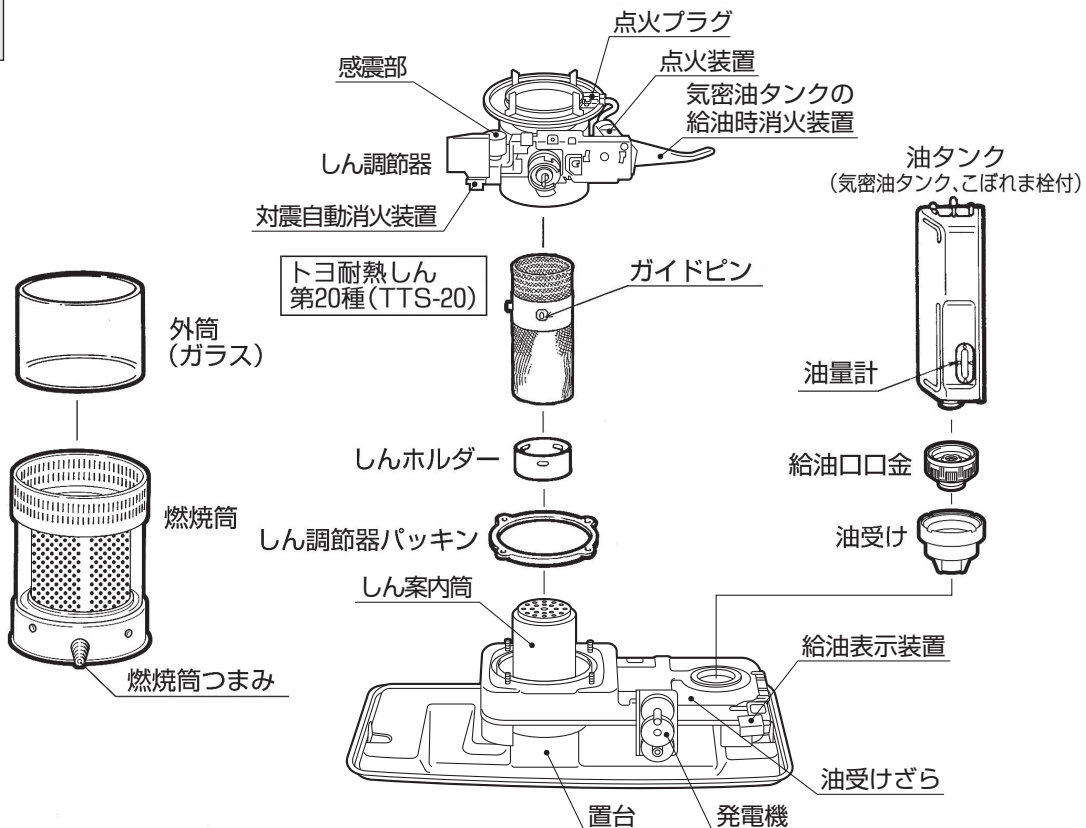
●部屋の空気をサーキュレータなどで対流させますと、部屋の温度のムラがより少なくなり、効果的に暖房ができます。(このときストーブには直接風があたらないように注意してください。)

3 各部のなまえ

外観図

操作部

構造図

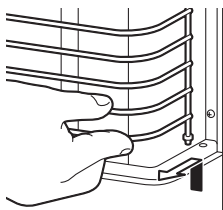
点火プラグ
感震部
点火装置
気密油タンクの
給油時消火装置
しん調節器
油タンク
(気密油タンク、こぼれま栓付)
対震自動消火装置
トヨ耐熱しん
第20種(TTS-20)
ガイドピン
外筒
(ガラス)
油量計
しんホルダー
給油口口金
燃焼筒
しん調節器パッキン
油受け
しん案内筒
給油表示装置
燃焼筒つまみ
油受けざら
置台
発電機

お願い

耐熱しんに、灯油の燃えかす(タール)が多量に付着しますと、しんが下がらなくなったり点火しにくくなったりします。
11 保管「9 しんの手入れをする」を参照して、しんのから焼きクリーニングをしてください。

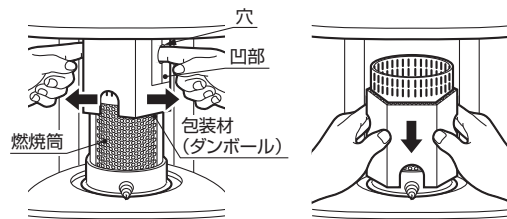
ストーブを取り出す

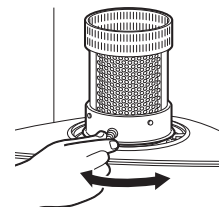
1 包装箱に表示してある「包装の内容」をごらんになったうえで、包装箱から包装材などを取り除き、製品を傷付けないように取り出してください。
包装箱や包装材はストーブを保管するときに必要です。取扱説明書も忘れずに保管してください。

お願い
包装材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。

2 ガードの右下すみを少し持ち上げて手前に引き、ガードを開けてください。

3 燃焼筒を納めている包装材を取り除き、燃焼筒を取り出してください。

●包装材の穴に指を入れ、内側に折り曲げてある部分（凹部）を引き出し、包装材を下へ下げて、燃焼筒を取り出してください。

お願い
燃焼筒の端面に手、指などふれないようにしてください。

燃焼筒をセットする

1 燃焼筒をしん調節器の上に正しくセットし、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくセットされているか確かめてください。

2 ガードを、もとの位置に閉じてください。

お願い
製品の輸送中に生じた外筒（ガラス）の破損、燃焼筒の変形、ねじのゆるみや、はずれなどがないか調べてください。

燃　料

⚠危険

★ガソリン使用禁止
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

◉燃料は灯油（JIS1号灯油）を必ず使用してください。
◉不良灯油（変質灯油、不純灯油）は、絶対に使用しないでください。

●誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときはあわてずに、緊急消火ボタンを押して消火してください。
●変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油･水･ごみが混入した灯油など）などの不良灯油は、絶対に使用しないでください。
異常燃焼や故障の原因になります。
●市販されている助燃剤（添加剤）は使用しないでください。
異常燃焼を起こすおそれがあります。

灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます。
（火の気のない所でおこなってください。）

○　灯　油	×　ガソリン
濡れたままです。	すぐに乾いてしまいます。

◉灯油の保管のしかた

●灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
●灯油容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ず色付きの灯油専用容器を使用してください。
●灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
●ドラム缶などで、長期間大量に保管しないでください。
●お子様の手のとどかない所に保管してください。

禁止

火気厳禁

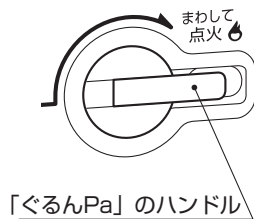
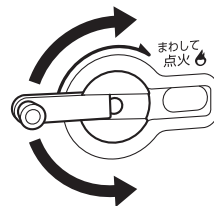
良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管。	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管。
	禁止

変質灯油とは

●古い灯油。（ひと夏持ち越した灯油）
●日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
●容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
●変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。
●変質を防ぐため灯油は翌シーズンに持ち越さないようにしてください。

使用禁止

ぐるんPa(手回し発電機)

●本品の点火装置は、電池式ではありません。
●お客さまが「ぐるんPa」のハンドルを回すことで回転力を電気に変換して、放電点火させる点火方式を採用しています。

●点火の発電目安は、「ぐるんPa」のハンドルを1秒間に1.5〜2回転させる回転力が必要となります。

お願い

●点火操作をするときは、必ず包装材を取り除いてから点火操作してください。
●「ぐるんPa」のハンドルを回転させるときは、天板の上に手をのせないでください。
●すべりやすい床などで使用される場合は、床を傷つけるおそれがありますので、かならず置台に手を添えて「ぐるんPa」のハンドルを回転させてください。

不純灯油とは

●灯油以外の油(ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など)がほんの少しでも混入した灯油。
●水やごみが混入した灯油。

不良灯油(変質灯油・不純灯油)の見分けかた(2つのコップを用意して、片方には水を、もう片方には灯油を入れて背後に白い紙をあてます。)

保管期間が短く、水と同じ無色透明なら正常。

少しでも色がついていたら使用しない。

白い紙　水　灯油

使用禁止

紫外線で灯油が劣化した時は、灯油が変色しにくく見分けかたが難しくなります。ひと夏持ち越した灯油は無色透明でも絶対に使用しないでください。

変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると

●**変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用しますと、灯油の程度にもよりますが、1〜30日のご使用でしんに多量のタールがたまり、しんの先端が固くなったり、点火しにくくなったり、しんが上下しにくくなったり、炎が大きくならなくなったり、激しいにおいがしたりします。**
また、消火時にしんが下がらず火が消えなくなります。
●水の混入した灯油を使用しますと、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなったり、しんが上下しにくくなったり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
●ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。

➡

万一変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使ったときの処置のしかた

1 油タンクや油受けざら内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2〜3回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。
(悪い灯油が残っていると再発します。)

2 **11 保管 「9しんの手入れをする」を参照して、しんの先端の固くなっている部分を、ラジオペンチなどで軽くつぶしてから、しんのから焼きクリーニングをおこなってください。**

3 しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。
しんの取り替えは、販売店までお問い合わせください。

お願い

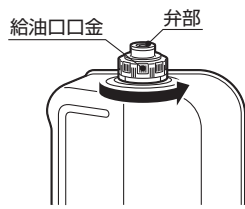
変質灯油や不純灯油などの不良灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

給油のしかた

⚠警告

給油は、必ず消火していることを確認して、ストーブの温度が充分に下がってから、他に火の気のない所でおこなってください。火災の原因になります。

1 油タンクを取り出す。

- 油タンクを取り出し、給油口口金を、左「⟲」に回して取りはずしてください。
- 給油口口金を取りはずす前に、先端の弁部を押すと、給油口口金が取りはずしやすくなります。

2 油量計を見ながら給油する。

- 市販の給油ポンプの先端をジャバラの手前まで差し込んで、油量計を見ながら給油してください。(ホースが抜けないように注意しながら給油してください。)
- 灯油は、油量計のほぼ上部(右図の給油位置➡)まで給油してください。
  油タンクの油面が上昇してくるとオレンジ色から黒色に変わります。
  入れ過ぎますと、あふれ出ることがありますので充分に注意してください。

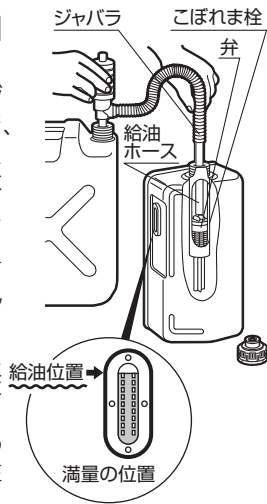
お願い

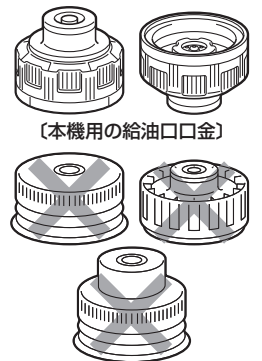
- 油タンクの中にある**「こぼれま栓」**の弁が、給油口の近くまで上がっているときは、弁を下へ押し下げてください。
- 油タンクの中にある**「こぼれま栓」**は、給油口口金がはずれたときに、油漏れを防ぐ装置ですので、取りはずさないでください。

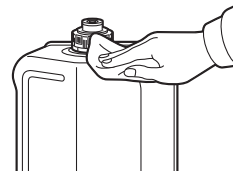
3 給油口口金を「カチッ」と音がするまで右「⟳」に回して、しっかり締める。

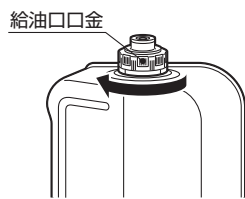
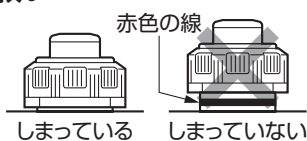
- カチカチと何度も音がしても大丈夫です。
  正しく締まると油タンクの赤色の線が見えなくなります。
- 給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。

お願い

給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれ、火災の原因になります。

- 油タンクから灯油が漏れる状態で使用しないでください。
  火災のおそれがあります。
- 同時に多数の油タンクに給油する場合は、類似している給油口口金がありますので、間違えないようにしてください。
  灯油が出なくなったり、故障の原因になります。
- 灯油容器のふたも、しっかり締めておいてください。

〔本機用の給油口口金〕

4 こぼれた灯油はよくふき取る。

こぼれた灯油は必ずきれいにふき取ってください。危険ですし、燃焼中に臭気を発生する原因にもなります。

5 油タンクをセットする。

油タンクを、本体に正しく、ゆっくりとセットしてください。

お願い

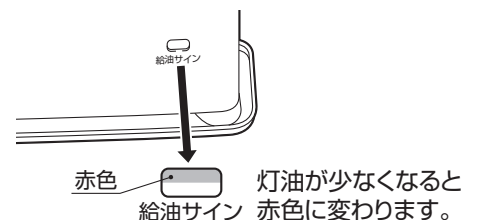
オート給油ポンプ(自動停止装置付)を使用する場合

- 市販のオート給油ポンプ(自動停止装置付)の中には、**「こぼれま栓」**と干渉して、次のような不具合状態になり、正しく給油できないものがあります。

〔不具合〕1　スイッチをいれると、すぐに停止してしまう。
　(処置)●油タンクに差し込むホースのセンサー部の位置(方向)を変える。
　(処置)●ポンプの乾電池の消耗度を確かめる。消耗していれば交換する。
2　自動停止しない。灯油があふれてしまう。
　(処置)●ポンプの取扱説明書に従って、固定具の位置を調節する。

- **上記の処置をしても正しく給油できない場合は、直ちに給油を中止し、他の給油ポンプ(手動式ポンプなど)を使用して、正しく給油してください。**

給油の目安

- ストーブを使用するときは、ときどき給油サインを見て、灯油があるかどうか確認し、灯油がなくなる前に給油してください。
- 油タンクに灯油があるときは、「給油サイン」の色は**「緑」**ですが、灯油が少なくなると**「赤」**に変わります。
- 「給油サイン」の色が**「赤」**になりましたら、消火して給油してください。

点火前の準備と確認

点火前の確認

●ストーブの上方や周囲、置台の上に、布類や紙やマッチなど、可燃物がないことを確認してください。可燃物があると火災のおそれがあります。
●ストーブが水平で安定した場所に設置してあることを確認してください。

燃焼筒と油タンクのセットを確認する

●点火操作をする前には、必ず燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているかどうか、燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かして、スムーズに動くことを確認してください。
●油タンクがセットされていないと、気密油タンクの給油時消火装置が作動して、しん調節つまみが戻り、点火できません。

対震自動消火装置のセット

しん調節つまみを、**「点火位置」**の方向( )に、ゆっくり止まるまで回しますと、対震自動消火装置が自動的にセットされます。対震自動消火装置がセットできない場合は、一旦しん調節つまみを**「緊急消火位置」**の方向( )へ回してからおこなってください。

5 使いかた

点火のしかた

⚠注意

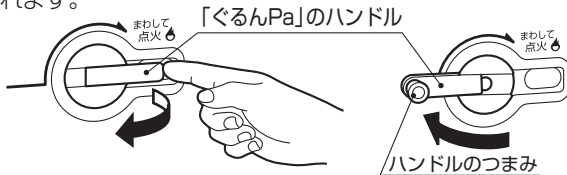
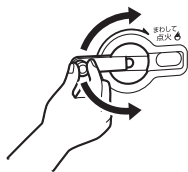
使いはじめや、しんのお手入れをした後は、しんに充分灯油がなじむよう、給油してから約20分待って点火してください。
しんに充分灯油がなじんでいないと、しんの上下操作が重くなったり、点火や消火ができないことがあります。

●初めてお使いになるときは、点火後、ストーブに付着しているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらくお使いいただければにおいはなくなります。
●点火後しばらくの間は、炎が安定せず、「ボッ、ボッ、ボッ」と燃焼音がしますが、異常ではありません。しばらくすると炎が安定し、音がしなくなります。

ぐるんPaによる点火のしかた

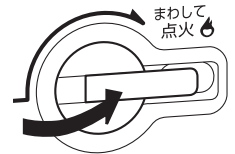
1 しん調節つまみを「点火位置」の方向に強く止まるまで回す。

●しん調節つまみを**「点火位置」**の方向( )に強く止まるまで回してください。手をゆっくりはなすとしん調節つまみが少し戻って止まります。

●「ぐるんPa」のハンドルを引き出し、確実にロックするまで「ぐるんPa」のハンドルを開いてください。ハンドルのつまみが現れます。

●「ぐるんPa」のハンドルのつまみを持って、「ぐるんPa」のハンドルを左右どちらかの方向に回してください。「ピィー」と放電音がします。回転速度が遅いと「ピィー」と放電音がしても着火しませんので、1秒間に1.5〜2回程度のスピードでハンドルのつまみを持って回してください。

お願い

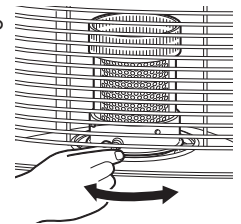
●しん調節つまみが、止まらずに「緊急消火位置」まで戻ってしまう場合は、油タンクが正しくセットされているか確認してください。
●「ぐるんPa」のハンドルを回転させるときは、天板の上に手をのせないでください。
●すべりやすい床などで使用される場合は、床を傷つけるおそれがありますので、かならず置台に手を添えて「ぐるんPa」のハンドルを回転させてください。

2 火が着いたことを確認する。

●火が着いたことを確認したら、「ぐるんPa」のハンドルを回すことをやめて「ぐるんPa」のハンドルを元通りに収納してください。
●「ぐるんPa」のハンドルを収納し忘れるとつまみを引っ掛けたり、思わぬ事故につながるおそれがありますので確実に元通りに収納してください。

点火しにくい場合は

●しん調節つまみを「点火位置」の方向に強く止まるまで回してください。
●「ぐるんPa」のハンドルを回すスピードが遅いと、点火しにくくなります。1秒間に1.5〜2回程度のスピードが回転の目安です。
●しんにタールやカーボンが付着したり、点火プラグに水分がついていたり汚れてくると、点火しにくくなります。しんのお手入れ、しんの修正、点火プラグの掃除をおこなってください。(7 点検·手入れ · 11 保管 参照)

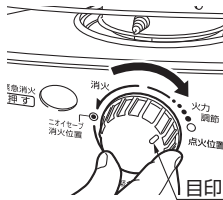
3 燃焼筒のセットを確認する。

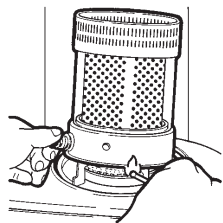
点火操作後、燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確認してください。燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。

お使いになられる時に

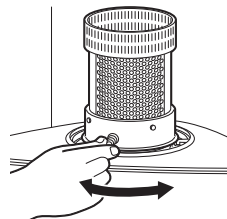
●しん調節つまみを**「点火位置」**の方向( )に回しても止まらずに、消火方向( )に大きく戻ってしまう場合は、一旦、しん調節つまみを「緊急消火位置」まで戻してください。回せない場合や硬い場合は、しんにタールが付いています。しんのお手入れ(から焼きクリーニング)をしてください。または、新しいしんと交換してください。

ぐるんPaで点火しないとき

1 しん調節つまみを「点火位置」の方向へゆっくり回す。

●しん調節つまみを「**点火位置**」の方向( )に、ゆっくり完全に止まるまで回してください。

2 マッチや市販の点火用ライターで点火する。

●ガードを開けて、燃焼筒を持ち上げ、マッチや市販の点火用ライターなどを使ってしんに火を着けてください。
●たばこ用のライターで点火しないでください。
●**マッチで点火した場合は、マッチの燃えかすをしん付近やストーブ内に落としたり、置台の上に置かないでください。**
火災の原因になります。

3 燃焼筒のセットを確認する。

●火が着いたことを確認したら、燃焼筒つまみを左右に2〜3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめて、ガードを閉じてください。燃焼筒が正しくセットされていないと、異常燃焼し、火災になるおそれがあります。
●火が着いたことを確認したら、しん調節つまみを少しだけ(点火した火が消えない程度に)消火の方向に回してみて、引っかかりがなくスムーズにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。しん調節つまみがスムーズに回らないときは、燃焼筒を持ち上げて、しんを完全に下げてから、点火操作を始めからやり直してください。

炎の調節のしかた

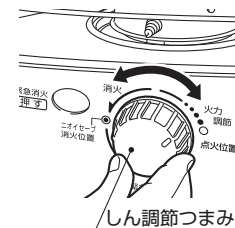
⚠警告	**衣類などの乾燥には使用しないでください。** **衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。**	禁止
⚠注意	**やかんやなべなどをのせた場合は、細心の注意をしてください。** **振動や接触によって、やかんやなべなどの熱湯がこぼれ、やけどをしたり、外筒(ガラス)が割れたり、異常燃焼(立炎)の原因になります。** **吹きこぼれたり、煮こぼれたりした場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。** **ストーブの故障や錆発生の原因になります。** **やかんやなべなどを油タンクふたの上にのせないでください。** **内部に熱がこもり、油タンクふたなどが熱くなりやけどのおそれがあります。**	注意

炎の調節

●**炎の調節は、しん調節つまみを回しておこなってください。**
●しん調節つまみを回して炎を調節するときは、**炎の状態** のイラストをよく見て、必ず正常燃焼の範囲で使用してください。

炎の状態 最大正常燃焼のときの炎の長さは、燃焼筒の上部より約1〜3cmです。

異常	正常	正常	異常
✕	○	○	✕
しんの上げすぎ (炎が大きく伸びている)	**最大正常燃焼**	**最小正常燃焼**	**しんの下げすぎ** (燃焼筒が充分に赤熱しない)
すすや一酸化炭素が多く発生する	炎の長さが1〜3cm	燃焼筒全体が赤熱している状態	においや一酸化炭素が多く発生する

◉**炎の大きさは上図のように、正常燃焼の範囲でご使用してください。**
●点火後は、燃焼筒が徐々に赤熱し、数分で燃焼筒全体が赤熱します。
●部分的な炎の伸びや、燃焼筒の赤熱ムラがでるときは、燃焼筒つまみを持って左右に軽く2〜3回動かしてください。
●炎が安定したら、しん調節つまみを回して、正常燃焼の状態に調節してください。
●燃焼中は、ときどき炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。しんが上がりすぎていたり、燃焼筒がずれていると、すすが出て、異常燃焼を起こして危険です。

火力を弱くする場合の注意

●前板の火力調節幅の表示を目安に調節してください。
●火力を弱くした場合でも、燃焼筒全体が赤熱している状態で使用してください。
●あまり火力を弱くすると、においや一酸化炭素が多く発生し、しんにタールが付着し消火時間が長くなります。
●変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用してしまい、しんにタールが付着したり、水を含んでしまったときは、炎が大きくならないとともに、しんの上下操作が重くなります。このようなときは、11 保管「9しんの手入れをする」の項を参照してしんの手入れをしてください。

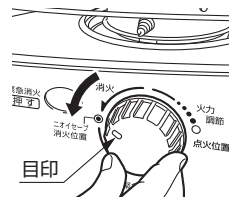
消火のしかた

通常の消火の場合

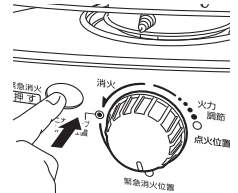
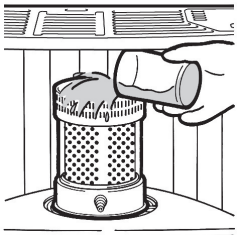
1 しん調節つまみの目印を、「ニオイセーブ消火位置」まで、ゆっくりと回す。

しん調節つまみの目印を「消火」の方向(↺)の**「ニオイセーブ消火位置」**までゆっくり止まるまで回してください。(速く回すとにおいが出やすくなります。)

2 消火を確認する。

●においを少なくするため、約1～5分程燃焼(炎が一部残る)して消火します。
●しん調節つまみの目印が**「ニオイセーブ消火位置」**にあり、火が消えたことを必ず確認してください。

緊急の消火の場合

◉緊急消火ボタンを押す。

●急速に消火させるため、においやすすが発生することがあります。
しん調節つまみの目印が**「緊急消火位置」**にあり、火が消えたことを必ず確認してください。
●緊急消火ボタンを押しても、しんが下がらず消火できない場合は、しん調節つまみを強く左方向(↺)に回して、しんを下げてください。
それでもしんが下がらない場合は、油タンクを取り出し、火が消えるまで燃やしきってください。(約1時間かかります。)
●時間に余裕がない場合は、ガードを開き、燃焼筒の上にコップ一杯(200mℓ程度)の水をかけて消火してください。

水をかけると水蒸気が出たり、ガラスが割れることがあります。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか、手にタオルを巻くなどしてからおこなってください。また、後で油受けざら内の水の入った灯油を抜き、しん交換が必要です。

しんを下げられない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、**11 保管「9 しんの手入れをする」を参照し、****しんの手入れをおこなうか、新しいしんに交換してください。**

お願い

消火後、約5分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気が出たり、点火しないことがあります。

6 安全装置

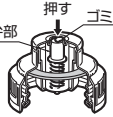
対震自動消火装置

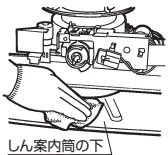
●ストーブが地震(震度約5以上)や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。
●しん調節つまみを「点火」の方向にゆっくりと止まるまで回すと、自動的にセットされます。
●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、灯油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。

気密油タンクの給油時消火装置

●燃焼中に油タンクを取り出すと、自動的に消火させる安全装置です。(しん調節つまみの目印が「緊急消火位置」に戻ります。)
●油タンクを本体に挿入すると自動的にセットされ、しん調節つまみが回せるようになります。
●気密油タンクの給油時消火装置は、消火した状態(しん調節つまみの目印が「ニオイセーブ消火位置」にある場合)でも油タンクを抜くと、「緊急消火位置」まで目印が戻り、対震自動消火装置がセットできなくなります。

お願い

燃焼中に、対震自動消火装置や気密油タンクの給油時消火装置が働いた場合は、消火時のにおいが強く発生します。給油をされるときは、においを抑えるため、しん調節つまみで消火させ、消火を確認してから油タンクを取り出してください。

7 点検・手入れ

点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

●ストーブを消火し、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。
●手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
●安全装置の取りはずし、分解はおこなわないでください。

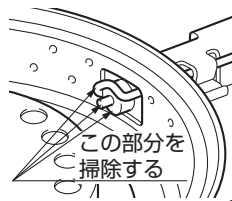
使うたびに

点検箇所	点検内容	処置方法
ストーブの周囲	●ストーブの周囲に可燃物や障害物がありませんか。［火災の原因になります］	●常に整理・掃除をし可燃物をストーブの周囲に置かないでください。
油こぼれ 油たまり 油にじみ	●油タンク、油受けざら、置台の表面に、灯油がこぼれたり、たまったり、にじんでいませんか。［火災の原因になります］	●こぼれたり、たまったり、にじんだ灯油はきれいにふき取ってください。
油漏れ	●油タンクから油漏れはありませんか。 ●製品から油漏れはありませんか。［火災の原因になります］	●油タンクの給油口口金の、弁部などにはさまっているごみなどを、取り除いてください。 ●灯油が漏れている場合は、すぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理依頼をしてください。 押す　ゴミ　弁部
外筒（ガラス）	●欠けたり、割れたりしていませんか。［異常燃焼の原因になります］	●お買い求めの販売店に相談して、新しい外筒（ガラス）に交換してください。

1箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
ほこり 燃焼用空気取入れ部（しん案内筒下部）	●反射板や置台にほこりがたまっていませんか。前板の下の隙間に紙やビニールなどが入りこんでいませんか。［異常燃焼や火災の原因になります］	● 11 保管 の1～5項を参照して本体を取りはずし、置台と油受けざらの隙間（**特にしん案内筒の下部）のほこり、ごみなどを取り除いてください。**掃除機で吸い取るのも効果的です。 しん案内筒の下
対震自動消火装置	●しん調節つまみを回してしんを上げてから、置台をゆすると、対震自動消火装置が作動し、そのときしんが下がり、しん調節つまみの目印が**「緊急消火位置」**に戻りますか。［確実に消火することを確認］	●しん調節つまみの目印が**「緊急消火位置」**に戻らない場合は、**しん**の項の点検をしてください。 ●販売店に修理依頼をしてください。
ぐるんPa（発電機）	●点火プラグのスパーク音は、「ピィー」と鳴りますか。	●音がかすれる場合は**点火プラグ**の項の点検をしてください。 電圧が下がっています。 ハンドルの回転を速くしてください。
燃焼筒	●燃焼筒の細かい穴に燃えかすや、すすが付着していませんか。［異常燃焼の原因になります］	●ブラシなどを使って、燃えかすや、すすを取り除き、きれいに掃除してください。
しん	●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。 **しんにタールが付着していると、次のような不具合が発生します。** ●消火操作をしても、しんが下がらず、消火しない。 ●しん上下の操作が重く、スムーズにできない。 ●点火操作をしても、点火しない。 ●燃焼筒が赤熱しなかったり、燃焼中ににおいがする。	●タールが付着している場合は、11 保管 **「9 しんの手入れをする」**に従って、しんの手入れをおこなってください。 **お願い** ●しんの手入れは、風のあたる場所ではおこなわないでください。 ●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をしてください。 ●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。
点火プラグ	●点火プラグが、カーボンやタールで汚れていませんか。 ●点火プラグがしんにくい込んでいませんか。［点火不良の原因になります］ ●水をこぼしたりしていませんか。	●点火プラグが汚れているときは、**「点火プラグの掃除」**に従って処置をしてください。 ●点火プラグがしんにくい込んでいるときは、**「しんの修正」**に従って処置をしてください。
気密油タンクの給油時消火装置	●しん調節つまみを回してしんを上げてから油タンクを持ち上げると、気密油タンクの給油時消火装置が作動してしんが下がり、しん調節つまみの目印が**「緊急消火位置」**に戻りますか。	●しん調節つまみの目印が**「緊急消火位置」**に戻らない場合は、**しん**の項の点検をしてください。 ●販売店に修理依頼をしてください。

点火プラグの掃除

●ガードを取りはずし、燃焼筒を取り出してから、マイナスドライバーなどで、点火プラグの電極や碍子部分に付着した汚れを取り除いてください。
●掃除が終りましたら、元通りにしん調節器に燃焼筒をのせ、ガードを取り付け、「ぐるんPa」のハンドルを回して正常に点火するかどうか確認してください。
●点火しにくかったり、点火しない場合は、**「しんの修正」**をするか、もう一度きれいに掃除し直してください。また、**しんの手入れ（から焼きクリーニング）**をおこなうと、点火プラグに付着した汚れが取れやすくなります。（11 保管 **「9 しんの手入れをする」**参照）

しんの修正

●燃焼筒を取り出し、しんを上げて点火プラグ近くのしんの側面を内側に、割り箸などで軽く押さえるように撫でて、しんを整える。
●一度しんを下げてから燃焼筒をのせ、「ぐるんPa」のハンドルを回して点火してください。

8 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買い求め店、または、修理資格者［（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL.03-3499-2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など］のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

9 故障・異常の見分けかたと処置方法—修理を依頼される前に—

故障・異常箇所	原因 ＼ 現象	点火しない・しにくい	炎が大きくならない・消えてしまう	赤火や、すすが出て燃える	消火しない・しにくい	においがする	炎がかたよる	しんが下がらない	しん上下の操作が重い	火の回りが遅い	処置方法
しん	しんの出過ぎ。	○		○		○					しんを下げて、炎を調節する。
しん	しんの出が少ない。	○	○			○				○	しんの高さを調節する。新しいしんと交換する。
しん	しんに水を含んでいる。または油受けざら内に水が入っている。	○	○					○	○	○	しんの手入れをする。または、新しいしんと交換する。油受けざら、油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。
しん	しんにタールがついている。	○	○		○	○		○	○	○	
燃焼筒	燃焼筒がしんの上にのっている。			○		○	○	○			点火してから必ず燃焼筒つまみを持って左右に2～3回動かす。
燃焼筒	燃焼筒の変形。			○		○	○				内炎筒、外炎筒が変形していないかを確かめる。（変形している場合は販売店に連絡する）
燃焼筒	しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。			○		○	○				しん調節器の上面にタールがついていないか。または燃焼筒下部に不揃いがないかを調べる。
燃焼筒	外筒（ガラス）にひびや割れがある。			○		○	○				燃焼筒を交換する。
燃料	灯油が変質している。（汚れた油やポリ容器で1年間持ち越した油など）	○	○		○	○		○	○	○	しんにタールがつく原因となるので正常な灯油に交換する。
燃料	灯油が水やごみを含んでいる。	○	○					○	○	○	正常な灯油に交換する。
油タンク	給油口口金が間違っている。	○	○								給油口口金を正しいものに取り換える。
油タンク	油タンクが本体に入っていない。	○									油タンクを本体に入れる。
ぐるんPa	ハンドルの回転スピードが遅い。	○									ハンドルを1秒間に1.5～2回転の速さで回す。
点火装置	点火装置のコードがはずれている。	○									コードがはずれているときは正しく差し込む。その他は販売店に連絡する。
点火装置	点火装置がショート（短絡）している。	○									ショートしないようになおす。不明の時は販売店に連絡する。
点火装置	点火プラグの電極が正常でない。	○									点火プラグが破損していないか確かめる。（破損している場合は販売店に連絡する）
点火装置	点火プラグがしんにくい込んでいる。点火プラグが汚れている。	○									しんの修正をする。点火プラグを掃除する。
置台	製品内部に、ほこり、ごみがたまっている。			○							製品内部を掃除する。

この表以外の不具合があるときや、処置方法により処置をしても良くならないときは、使用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。

10 部品交換のしかた

⚠注意	点火装置は、点火時に高電圧が発生します。点火プラグに不用意にさわらないでください。感電のおそれがあります。

- **しんなどの交換部品は必ずトヨトミ純正部品（指定された部品）を使用してください。**
- **替えしん、燃焼筒などの交換部品が必要な場合は、お買い求めの販売店までお問い合わせください。**
- 部品が販売店にない場合は、別紙の **お客様相談窓口一覧** までお問い合わせください。
  インターネットでの部品の購入は、http://toyotomi.shop14.makeshop.jp/をご覧ください。

部品交換のときの注意

- **ご自分で部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけどや感電、けがなどしないよう注意しておこなってください。**
  ①手をやけどしないように、ストーブは消火し、温度が充分下がるまで待ってください。
  ②感電しないように、「ぐるんPa」のハンドルは収納しておいてください。
  ③手をけがしないように、手袋をはめてください。
- **不完全な修理は危険です。お買い求めの販売店か、（財）日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）などのいる販売店で修理依頼されることをおすすめします**

しんの交換のしかた

トヨトミ純正適合しん

トヨ耐熱しん第20種（TTS-20）	商品コード:11013907

しんの交換方法・注意内容は、耐熱しんに添付されている取扱説明書をお読みください。

検査に合格したしんにはこのマークが貼ってあります。マークの色彩は、白地に赤インクで表示されています。

燃焼筒の交換のしかた

燃焼筒	商品コード:11121906

燃焼筒が変形した場合や、外筒（ガラス）が割れたりした場合は、お買い求めの販売店、または、別紙の **お客様相談窓口一覧** までお問い合わせください。

点火プラグの交換のしかた

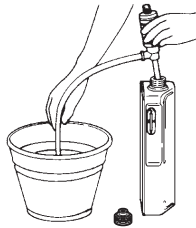
点火プラグを交換するときは、お買い求めの販売店または、別紙の **お客様相談窓口一覧** までお問い合わせください。

11 保管（長期間使用しない場合）

⚠注意

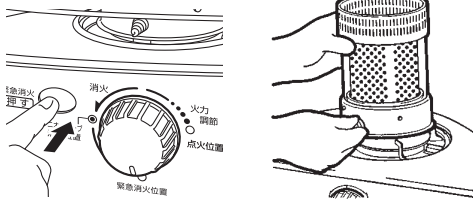
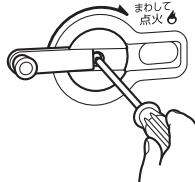
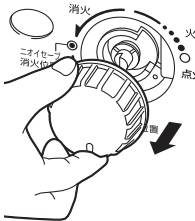
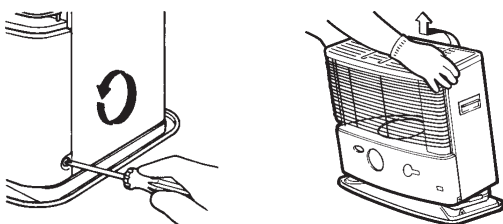
長期間使用しないときまたは保管するときは、必ず灯油を抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。火災のおそれがあります。

1 油タンク内の灯油を抜き取る。

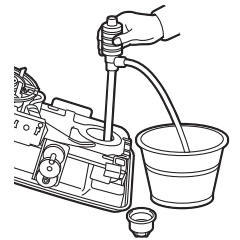
①ストーブから油タンクを取り出し、市販の給油ポンプ(手動式)を油タンクのこぼれま栓を押し下げて、ななめに底まで押し込んで、油タンク内の灯油を抜き取ってください。

お願い

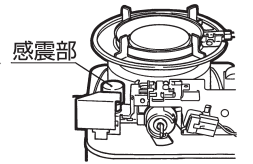
こぼれま栓は、はずせません。割り箸などの棒を使ってこぼれま栓を押し下げたりしないでください。中に入ってしまうことがあります。

②わずかに残った灯油は、油タンクに給油口口金を取り付け、油受けを本体の中から取り出して給油口口金に押し当て、油タンクを上下にゆすって抜いてください。

2 緊急消火ボタンを押して、対震自動消火装置を作動させ、しんを下げてから、ガードを開いて、燃焼筒を取り出してください。

3 「ぐるんPa」のハンドルを引き出し、中央の止めねじを取り、「ぐるんPa」のハンドルを引き抜いてください。

4 **「しん調節つまみ」**を引き抜いてください。

5 本体の両側面と背面にある止めねじ3本を、取りはずしてください。本体を前方に傾けながら、ゆっくりと上方に持ち上げて取りはずしてください。

6 油受けざら内の灯油を抜き取る。

油受けを取り出してから、油受けざら内の灯油を市販の給油ポンプ(手動式)で抜き取ってください。

●油タンク、油受けざらに水やごみが残ったまま保管すると、錆や穴あきの原因になります。きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。残った灯油は、布切れなどで吸い取ってください。

感震部の点検・手入れをおこなう

- ●ごみやほこりがついていたら、やわらかい布できれいにふき取ってください。
- ●錆が多量に発生している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ●ストーブ内の汚れは、濡れた布でふいて落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。

7 本体とつまみ類を元通りに組付け、「ぐるんPa」のハンドルを止めねじ1本で取り付け、燃焼筒をしん調節器の上に正しくのせてください。

8 灯油を抜いた油タンクを本体にセットします。

9 しんの手入れをする。（から焼きクリーニング）

お願い

- **●しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。**
- **●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をおこなってください。**

●燃焼筒を取り出してしんの状態を確認し、しんの先端が固くなっている時は、ラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶしてからおこなってください。

①燃焼筒をのせ、通常の点火操作をして、正しく燃焼させてください。

②火力が小さくなったら、しんを一杯に上げて自然に消火するまで燃やしきってください。

10 緊急消火ボタンを押す。

対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。

11 「ぐるんPa」のハンドルを収納状態にしてから包装箱に収納する。

包装箱に入れて、湿気の少ない場所に保管してください。
「取扱説明書」も忘れずに大切に保管してください。

お願い

- **●高温多湿、直射日光の当たる場所には、保管しないでください。**
  錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。
- **●油タンクは灯油を抜き、本体にセットして保管してください。**
- **●灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。**

●灯油は、変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない(使いきる)ようにしてください。

12 廃棄するとき

11 保管 の1～6項を参照して、油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取り、各自治体の指導に従って廃棄してください。

13 仕様

型式の呼び	RS-G30C
種類	自然通気形開放式石油ストーブ
	しん式·放射形
点火方式	発電式電気点火
使用燃料	灯油(JIS1号)
最大燃料消費量	3.01kW(0.292L/h)
暖房出力	3.01kW
油タンク容量	4.0L
燃焼継続時間	約13.7時間
質量	約9.5kg

外形寸法（置台を含む）		高さ	454.5mm
		幅	562mm
		奥行	279mm
しん	種類		普通筒しん
			トヨ耐熱しん第20種(TTS-20)
	呼び寸法	内径	85mm
		厚さ	2.5mm
		吸上量	200%
安全装置			対震自動消火装置(しん降下式) 気密油タンクの給油時消火装置

14 アフターサービス

保証について

●保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
●保証期間は、お買い求めの日より1年間です。

お願い

次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんので注意してください。
(1)変質灯油や不純灯油などの不良灯油、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
(2)ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかなかったために起こった故障や事故。
(3)純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったことによる故障。
(4)消耗品(しんなど)の故障。
(5)この取扱説明書や、注意書、ラベル類による危険·警告·注意·お願い事項が守られず、誤った使い方をされた場合の故障や事故。
●その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

修理を依頼するとき

● 9 故障·異常の見分けかたと処置方法 に従って、処置をおこなってください。
直らないときは、使用を中止し、必ずお買い求めの販売店に修理を依頼してください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名…石油ストーブ(自然通気形開放式石油ストーブ)
②型式の呼び…RS-G30C
③お買い求め年月日
④故障の状況(できるだけ具体的に)
⑤おなまえ,おところ,電話番号
●修理に際しましては、保証書を提示してください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●修理料金は、技術料,部品代,出張料などで構成されています。
●修理·引越しなどで、ストーブを運搬される場合は、ハンドルつまみを収納状態にして、油タンク、油受けざら内の灯油を抜いてください。運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

補修用性能部品について

●石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後6年です。
●補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

◉消耗·劣化する部品

●使用期間により、交換·メンテナンスが必要な部品…しん、給油口口金、油受け
●変質灯油、不純灯油などの不良灯油の使用で劣化しやすい部品…しん

故障·修理の際の連絡先

アフターサービスについてご不明な点は、お買い求めの販売店、または お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までお問い合わせください。

トヨトミ石油ストーブ 保証書

本保証書は、本書記載内容により無料修理をおこなうことをお約束するものです。
お買い求め日から下記期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

型　式　RS-G30C　　保証期間　お買い求め日より 1 年間

※お買い求め日　　年　　月　　日

※お客様　ご芳名　　様

〒□□□-□□□□

ご住所

電　話　（　　）

（※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は無効となりますから必ずご確認ください。）

※販売店名・住所・電話番号

株式会社 トヨトミ　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
〒467-0855　☎052-822-1144

【 無 料 修 理 規 定 】

1．お買い求め日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容により、お買い求めの販売店または当社が無料修理致します。
2．無料修理をお受けになる場合は、本書あるいは購入日・支払いを証明するものをご提示のうえ、お買い求めの販売店または当社にご依頼ください。
3．ご転居やご贈答品等でお買い求めの販売店に修理を依頼できない場合は、当社までお問い合わせください。
4．保証期間内でも、次の場合は有料になります。

（イ）取扱説明書、本体貼附ラベル等の注意書に従わない使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
（ロ）お買い求め後の器具の転倒、落下、衝撃・輸送等による故障及び損傷。
（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害その他の環境要因による故障及び損傷。
（ニ）指定以外の燃料、または変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用された場合に生じた故障や損傷。
（ホ）一般家庭用以外（例えば、温室や業務用の使用、車輛・船舶への搭載など）に使用された場合の故障及び損傷。
（ヘ）部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
（ト）本書にお買い求め年月日・お客様名・販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売等で購入され、それを証明する商品の送り状・支払明細書の提示がない場合。ネット販売を利用した個人売買品や譲渡品、中古品（再生品）の修理。
（チ）修理をご依頼に際して本書のご提示がない場合。

5．本書は日本国内においてのみ有効です。
6．本書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

●この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または、最寄りの当社支店・営業所にお問い合わせください。
●保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書の「アフターサービス」の項をご覧ください。
●お客様の個人情報は、当社規定により、厳格に管理します。保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

修理メモ

株式会社 トヨトミ

ホームページ　http://www.toyotomi.jp

本　　社　〒467-0855
名古屋市瑞穂区桃園町 5 番 17 号
フリーコール　0120-104-154
TEL 〈052〉 822-1144
FAX 〈052〉 822-2742

C-Ⓑ